藻類 Jpn. J. Phycol. (Sôrui) 69: 115–116, July 10, 2021

大会開催記

日本藻類学会第 45 回大会―オンライン東京・2021―開催記

藤田 大介

2021 年 3 月 15 ～ 17 日，新型コロナウイルス（以下，コロナ）の蔓延が続く中，日本藻類学会第 45 回大会をオンライン開催しました。学会の歴史を振り返っても極めて異例なパソコン画面の中のバーチャルな大会でしたが，口頭 52 件，ポスター 37 件，高校生ポスター 2 件の発表，ワークショップ 2 件，シンポジウム 1 件が行われ，一般 129 名，学生 83 名，高校生ら 16 名の計 228 名が参加されました。大会関係者および参加者の皆様に厚くお礼申し上げます。本大会は開催案内も遅れ，皆様には大変ご不便をおかけしました。

2019 年 11 月，学会事務局（高知大学）の峯一朗先生から，第 44 回鹿児島大会の次の大会の開催を打診されました。私は 1994 年第 18 回（富山），2008 年第 32 回（東京），2011 年第 35 回（富山）の 3 大会を手伝ったので，もう御用済みと思っていました。しかし，次の次まで開催地を決めておくことを学会に提案したのは私自身であり，学内の鈴木秀和，神谷充伸の両先生とも相談し，引き受けました。東京海洋大学では，前身の東京水産大学の第 3 回・第 4 回（大会長：片田実），第 16 回（同　三浦昭雄），海洋大の第 32 回大会（同　能登谷正浩）に続いて 5 回目の開催となりました。

まずは第 44 回大会に参加し，懇親会で次回開催地の挨拶を行う予定でした。この頃はまだコロナ感染第 1 波の初期で，学内の業務や行事，教室の空室状況などを考慮し，3 月 15 ～ 17 日の現地開催としました。しかし，第 44 回大会は，感染拡大防止のために中止になりました。それでも何か参考になることはないかと思い，鹿児島大学の寺田竜太実行委員長を訪ね，可能な限り引き継ぎました。

4 月に入ってコロナ感染が急拡大し（ピーク時陽性者 720 人），第 1 回緊急事態宣言が発令され，国際応用藻類学会（4 月）や日本応用藻類学会（5 月）が延期・中止となりました。6 月は比較的低水準で推移し，このまま収まれば現地開催も可能と思いましたが，下旬から感染者数が爆発的に増加し第 2 波となりました。8 月上旬のピーク時には陽性者約 1600 人となり，9 ～ 10 月に少し下がったものの，6 月のように下がり切ることはなく，アジア太平洋藻類フォーラム（9 月）や日本海藻協会シンポジウム（10 月）が延期・中止になりました。とんでもない年の大会を引き受けてしまったと後悔しましたが，9 月中旬に日本植物学会がオンラインで開催されました。参加された神谷先生の報告を受け，本大会もこれに倣い，口頭発表を Zoom，ポスター発表を Linc-Biz，休憩・懇親会を SpatialChat で行うことを考えました。大学事務からも，コロナ感染が先行き不透明のため教室使用の許可が下りない可能性があると言われ，オンライン大会へ舵を切り，学会事務局や評議委員会の了承を受けました。

第 45 回大会の会場となるはずだった東京海洋大学

ここからが正念場でした。我々海洋大の教員だけでは心もとないので，茨城大学の阿部信一郎，法政大学の植木紀子，横浜国立大学の仲田崇志，国立環境研究所の山口晴代，（財）海洋生物環境研究所の渡邉裕基，お茶の水大学の秋田晋吾の各氏に実行委員として参加していただきました。合計 9 名の体制で，9 月 29 日～ 3 月 1 日に 9 回の実行委員会を開催し，時には深夜まで意見交換を行いました。

10 月には，Zoom，Linc-Biz，SpatialChat の見積もりを始め，ワークショップとシンポジウムの講師を依頼しました。秋田委員は WEB 申込フォームを作成して参加者集計を効率化してくれました。コロナ感染は再拡大しましたが（第 3 波），11 月下旬に和文誌用の大会案内を整え，学会 HP に先行掲載し，その後も追加情報を流すようにしました。

年が明け，コロナ感染は最悪の事態（1 月 8 日に陽性者数 8045 人）となり，重篤患者や死者数も増え，変異ウイルスも確認され，第 2 回緊急事態宣言も発令されました。申込の締切後は，鈴木委員が中心となってプログラムの編集を行い，座長を決定・依頼し，仲田委員が掲載用原稿を仕上げてくれました。2 月（開催 1 カ月前）には上記 3 システムの契約を行いました。今回，Linc-Biz に他のシステムを統合したため，例年にない作業として，システム利用，システム間移動や発表・質問・聴講対応のマニュアルが必要となり，植木委員にご尽力いただきました。また，大会前と当日の接続テストが不可欠となり，スケジュール作成と個別のテストは阿部委員が陣頭の指揮を執られました。

かくして難産だった大会も何とか当日に漕ぎつけました。

初日は 2 つのワークショップ「実践的藻類ゲノム解析　入門から応用まで」（世話人：山口委員）と「R を用いた藻類データの解析セミナー」（世話人：渡邉委員）が同時並行で行われました。どちらも，これからの藻類学を担う人には不可欠なツールで，学習のよいきっかけになったと思います。

2 日目に一般発表がスタートしました。Zoom による口頭発表（2 会場）に先立ち，植木委員の労作動画「オンライン学会説明」が流されました。口頭発表は数の制限により，午前 10 時からゆったりと始められました。会場への移動もないので，朝起きてすぐ PC のスイッチを入れて参加した人もいたことでしょう。質疑応答は，座長が挙手者に発言を許可する形で進め，発表時間は，神谷委員の指示のもとに，会場係が Time Keeper（インターネットアプリ）を使って管理しました。Linc-Biz によるポスター発表では動画による説明やチャットによる質疑応答も可能で，会場を移動せずに速やかに総覧でき，混雑を避けて座したまま参加でき，質疑応答の内容を残せるなど，多くのメリットがありました。なお，通常は茶菓とともに休憩室が用意されるのですが，今回は SpatialChat 上の空間をご利用いただきました。

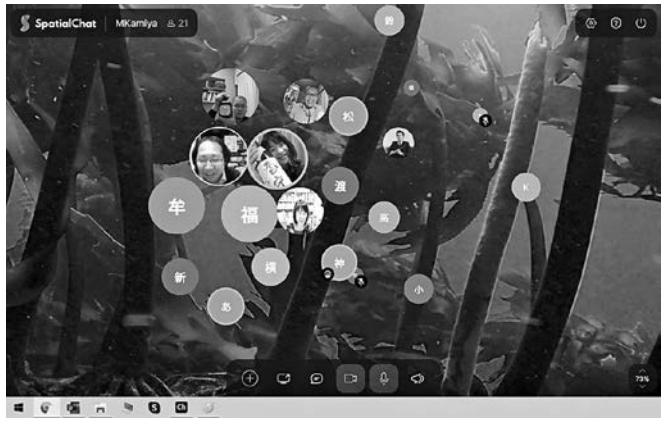
最終日も同様に進行し，午後からシンポジウム「藻類研究：多様なアプローチ，見えてきたこと，これから求められること」を開催しました。このシンポジウムと上記の R のワークショップは元々第 44 回大会の企画でしたが，流れて惜しむ声が多数ありましたので，寺田先生と講演者各位にご理解，ご協力を賜り，改めて本大会で実施しました。どの講演も圧巻で，自宅・職場に居ながら，藻類学の歴史を塗り替えて来られた先生方の話に聞き入ることができ，美しい藻類の画像や動画を目の当たりにできる素晴らしい時間でした。口頭発表も同様ですが，周囲の雑音や会話で聞こえなかったり，スライドが見えなかったりすることがなく集中できました。

発表終了後，総会（会務報告を参照）と懇親会を行いました。通常は中日なのですが，今回は最終日に移したので，全員が心置きなく参加できたと思います。懇親会の前半は，大人数での参加が可能な Zoom で行いました。寺田先生の乾杯の音頭に始まり，各自の空間で，参加費もなく，自分好みの酒とつまみで，くつろいだ雰囲気で参加できたと思います。喉が多少潤ったところで，山口委員の企画によるご当地紹介と藻類クイズが催されました。ご当地紹介では，開催地東京（藤田）に加え，各地に旅行しづらい時期であることに配慮し，宮城を桑田晃，京都を幡野恭子，高知を長崎慶三，沖縄を西辻光希の各会員に案内していただきました。また，藻類クイズでは，山口，植木，渡邉，秋田，仲田の 5 委員が出題しました。画面を注視してスピードを競い，頭をひねり，最速の正解者には豪華賞品も発送されました。後半の談笑の場となったのは SpatialChat です。ここでは，「前室」に入った後，「海中林」，「サンゴ礁」，「サンセットビーチ」，「湿原」，「スナックはるよ」の 5 つのバーチャル空間（各定員 50 名）に移動しました。参加者はアバター（自画像やニックネーム）の距離を縮めて会話し，顔見知り同士，あるいはそれに割り込み，挨拶，質問，討論，乾杯，記念撮影，何でもありの自由なやり取りができました。昼間は食堂（休憩室），夜は居酒屋（懇親会場）になる便利なお店のような空間で，空間の移動はまさに二次会，三次会の実現であり，オールナイト営業だったこともあり，神谷委員による中締めの後も，明け方近くまで談笑されていたようです。

以上，コロナ太りの重い指先でキーボードを叩き，稿をしたためましたが，大会に参加された方の記憶の助けに，また，参加されなかった方の状況の把握に少しでもお役に立てば幸いです。今回，反省すべきは，不慣れな大会形式であったため，休日開催の方がよかったかもしれないということ，また，今回のようなシステムに馴染みが薄い大御所会員に配慮する余裕がなかったことです。水産系大学での開催にも関わらず，各都道府県の水産試験場をはじめ，オンライン会議の普及・理解が遅れている職場の方々の参加が少なく，非常に残念でした。なお，比較的大所帯である海洋大でも若手不足のために地域連合で実施しましたが，今後，このような体制ができれば，これまで大会が行われてない地域での開催も可能になり，参加者の楽しみも増えると思います。

6 月 1 日現在も，新型コロナ禍は続いており，第 4 波（第 3 回緊急事態宣言）の真っ只中にあります。一日も早いコロナの終息と今後の大会のさらなる繁栄を祈念して，開催記を終えることにします。合掌！

（東京海洋大学）



SpatialChat 空間「海中林」での懇親会の様子